

農作業や山奥での土木工事など熊に対する心理的恐怖が就労意欲を削ぐ事にならないよう小平町独自の熊対策を進めていただきたい。

国や道・振興局などにより町外ハンターとの連携調整を実施していただけるよう要望してまいります。

町長 関 次雄

(1)熊を近づけないため各家庭でも生ごみや家庭菜園の野菜残渣などを放置しない、外での焼肉の後は速やかに片づける、草刈などにより熊が隠れる場所を作らないなどを続けて周知していききたい。

情報の一元化については次年度に向けて通信機能付きのトレイルカメラ3台を導入し行動監視を図っていききたい。

町内ハンターに過度な負担をかけないよう役場職員2名が猟友会に所属しておりガバメントハン

ターとして成長を期待している。必要に応じて町外ハンターの協力も仰いでいきたい。

(2)国による個体推移の確定調査や道も予算措置を考えているので余裕をもった体制をとっていききたい。

協議会も早急に立ち上げ情報の共有と対策検討を図っていき町民にも熊に対する確実な知識や情報を日々の暮らしに取り込み地域を守る体制作りを協議会はもとより町全体に周知徹底してまいりたいと考えている。

マイナンバーカードについて

西村 健一



マイナンバーカードは近年では保険証や運転免許証と機能が統合され、

許証と機能が統合され、今後は各自自治体において行政サービスや町民福祉の向上に期待されているところである。本町におけるマイナンバーカードの取得率、保険証との紐付け率、今後のカード活用方法や利用促進への取り組みについて伺う。

また、マイナンバーカードを利用した防災DXに向けた考えを伺う。

マイナンバーカードの活用方法を適宜検討協議し進めていききたい

町長 関 次雄

12月1日現在におけるマイナンバーカードの取得率は2千118人、約83%となっており、全国平均と比較して高い水準である。保険証との紐付け率については国民健康保険で72.63%、後期高齢者医療制度で79.13%となっている。

今後の活用方法等については国における4つの

基本的な方向性「オンライン資格確認」「自治体DX推進計画」「マイナポータル機能の充実」「民間サービスでの利用拡大」に合わせながら住民サービスの向上に資するよう取り組みを進める。

防災DXについては、災害時の避難所対応、物資配給、安否確認などに役立つことが示されている。しかしながら、紛失や多機能であるがための危険性もあり、町民がカードを日常的に携帯していかない状況にあるため、子供用のサブカードや様々な施設へのカードリーダー設置など、いろいろなアイデアをいただきながら安全に安心して使えるマイナンバーカードに育てていくことも使命だと考えているため、今後それぞれの立場で指導をたまわりたい。

持続可能となる農地の保全とスマート農業の取り組みについて

高野 謙市



農地の流動化が進み、個人・法人共に所有面積も許容範囲の限界に近づく中、当町では光回線が整備され、スマート農業の活用が進んでいる。一方では、田代地区や富里地区をはじめ小平町内の沢の奥地は一部で携帯電波が届かず、機械の機能を引き出せない地域もある。今後の不感地帯での農地WiFiの活用について伺う。

スマート農業効率化のための基盤整備が重要である

町長 関 次雄

町内では、沢地はもと

より不整形地や傾斜地などの中山間地域が多く、作業の効率が低下する。そのため、スマート農業を進める前段として、農地の基盤整備が重要な鍵となる。圃場の大規模化や暗渠排水等の整備をはじめとする基盤整備が重要である。圃場の大規模化により、大型機械の導入が可能となり、大幅な省力化が進む。それらを事業化するとすれば、時間と費用を要するが、関係機関の協力を得て慎重に進めていきたい。

